HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL
地域医療連携福祉センター
NEWS LETTER
No. 17

当院は平成26年6月から、新来患者様の受診について全診療科新来予約制・紹介制を導入いたします。

北海道大学病院における診療につきましては、日頃より患者様のご紹介・診療情報提供など医療連携体制へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

当院では、特定機能病院としての使命を果たすべく、各地域の医療機関からご紹介を受けました高度な医療を必要とする患者様に、適切な診療を効率的に行い、さらに当院を初めて受診される患者様の待ち時間短縮を図るために、平成25年４月から内科系診療科において予約制・紹介制を導入いたしました。

この度、平成26年６月からすべての診療科におきましても予約制・紹介制を実施することといたしましたのでお知らせいたします。また、予約業務につきましては、新たに新来予約専門の受付を設け、医療機関からの紹介予約及び患者様からの直接予約の双方に対応する体制を整えました。

医療機関からの紹介予約受付の手続きにつきましては、これまでどおりＦＡＸによる受付の手続を取らせていただきます。

また、５月19日(月)からは、患者様からの電話による全診療科の予約受付を開始いたします。患者様が直接予約をお取りいただく際は、医師(かかりつけ医師)の紹介状が必要となりますので、当院宛の紹介状を記載のうえ、患者様にお渡しいただきますようよろしくお願いいたします。

これからも、当院への変わらぬご理解とご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

新来予約受付部門の業務内容

(1)新来予約受付

①医療機関から

これまでと同様、専用FAXでご依頼をお受けいたします。

FAX　　:011－706－7963

専用電話:011－706－6037

受付時間:平日8:30～17:00

※16:30以降は翌日処理となります。

※翌日の予約は15:00までの受付となります。

②患者様から

5月19日からはすべての診療科について専用電話でお受けいたします。

専用電話:011－706－7733

受付時間:平日9:00～16:00

※翌日の予約は15:00までの受付となります。

＊精神科神経科につきましては、011－716－1161(代)を通して、リハビリテーション科については、011–706–7010で、お問合せ願います。

(2)セカンドオピニオン予約受付

(3)ＰＥＴ/CT検査 ＲＩ検査の予約受付
(連携機能協定病院様のみ)

(4)連携機能協定病院様への返書

(5)予約に関する問い合わせ対応

※詳細は最終ページのインフォメーションをご参照ください。

地域医療連携福祉センター体制の変更について

平成26年４月１日から、地域の病院から外来新規予約を受け付ける「紹介予約部門」が廃止され、地域医療連携福祉センターは「退院調整部門」及び「連携支援部門」の２部門体制となりました。

なお、この業務(①外来患者紹介②セカンドオピニオン受入事務)については、医事課外来第二係(011-706-6037)が担当し、ＦＡＸ、電話番号には変更がありません。

地域医療に携わる医療機関の皆様には、今後ともよろしくお願いいたします。

血液内科

外来診療のご紹介

血液内科　外来医長　近藤　健

血液疾患は一般にはなじみの少ない病気が多い事も有り、診断、治療には専門的知識、経験が必要な事が多いです。当科では血液専門医が11名在籍しており、新来は月曜から金曜まで紹介／予約制で行っています。再来についても、各曜日2～4名の担当医が専門診療を行っています。

対象疾患

血液内科では、特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血や血友病のような良性疾患から白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫のような悪性疾患まで血液疾患全般を診療しています。また、北海道エイズブロック拠点病院として、HIV感染症の診療も行っています。

血球減少症

貧血をはじめとした血球減少症は良く経験されますが、明らかな消化管／婦人科出血や腎不全などの病態が無い場合の貧血では、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などの血液疾患が存在していることがあります。血小板減少は特発性血小板減少性紫斑病や骨髄異形成症候群によって生じる事もあります。これらの病態は早期に診断することで、疾患による合併症を生じる前に適切な治療が開始出来ます。

凝固異常症

出血傾向や血栓傾向では、凝固異常症が存在する場合があります。先天性血友病は小児期に診断される事が多いですが、成人になって発症する後天性血友病は、あまり認知されておらず専門施設での精査が必要です。また繰り返す静脈性血栓症の場合には、凝固阻止因子欠乏症の有無の確認が必要となります。

血液悪性疾患の化学療法

先進医療を行う大学病院として、造血器悪性疾患（白血病、悪性リンパ腫など）の化学療法を行っています。近年では抗体医薬やキナーゼ阻害剤といった分子標的治療薬が導入されており、高度の専門性が要求されますが、適切に治療する事で治癒が期待出来る事も多いことが血液悪性疾患の特長です。また、新しい新薬の導入にも積極的に取り組んでおり、国内／国際的な臨床治験にも参加しています。

造血幹細胞移植

当院では造血幹細胞移植が日本に導入された初期から、積極的に移植医療に取り組んでおり、難治性血液疾患の治癒を目指した治療を行っています。また移植後も長期にわたるフォローが必要です。当院では造血幹細胞移植を受けられた患者さんを専門的にフォローする移植後長期フォロー外来を設置しています。当科で移植を受けられた患者さんだけでなく、小児期に移植を受けられたり、他院で移植を受けられた患者さんもフォロー致しますので、ご希望の方は外来までご相談ください。

HIV感染症／AIDS診療

北海道ではHIV感染症の患者さんが年々増加してきていますが、北海道大学病院では、血液内科が中心となってHIV感染症の診療にあたっております。血液内科には、日本エイズ学会の認定医・指導医も在籍しており、看護師、ソーシャルワーカー、カウンセラーなどのHIV専任スタッフとともに、チーム医療体制でHIV診療を行っております。また、道内の各医療施設からのHIV患者さんの相談・受け入れだけでなく、道内の医療施設や福祉施設などに出向く出張研修など、HIV感染症に関する社会的な活動も行っております。

消化器外科Ⅰ

診療案内

消化器外科Ⅰ　外来医長　本間　重紀

2012年4月より第1外科の名称が消化器外科Ⅰに変更されました。同時に臓器別の診療再編も行われ、われわれ消化器外科Ⅰは肝・胆・膵外科（肝胆膵グループ）、消化管外科（消化管グループ）、消化器移植外科（移植グループ）、小児外科（小児グループ）の４分野の診療を担当することとなりました。以下、グループ紹介いたします。

肝胆膵グループ

肝胆膵グループでは肝切除数は年間100例近くを数え国内トップクラスの症例数を誇っております。疾患は肝切除を必要とする肝細胞癌をはじめ、肝内胆管癌、転移性肝癌などの肝悪性腫瘍、北海道に特異的な肝エキノコックス症、巨大肝血管腫などの疾患の治療を行っています。肝門部胆管癌は大量肝切除、血管合併切除、膵癌は術前放射線照射を併用し行っています。手術の負担を軽減するため腹腔鏡下肝切除を症例に応じて行っています。

移植グループ（臓器移植医療部）

1997年に肝臓移植プログラム、2000年に膵臓移植プログラムを開始しました。これまでに生体肝臓移植240例(成人171例、小児69例)、脳死肝臓移植31例、膵臓・腎臓同時移植4例、膵臓単独移植3例を経験し、その5年生存率は80%以上となっています。北海道で唯一の脳死肝臓移植・膵臓移植実施認定施設です。

消化管グループ

日本内視鏡外科学会技術認定医を中心に積極的に腹腔鏡下手術を行っており、2013年は消化管癌の約90%に腹腔鏡下手術が施行されました。現在、①腹腔鏡下手術手技習得を目指した系統的教育カリキュラム、②より低侵襲化を目指したReduced-port surgery、③手術支援ロボット『da Vinci Si』を用いた腹腔鏡下直腸切除術、に特に力を入れております。地域の皆様のお力になれるよう日々精進しております。よろしくお願いいたします。

小児グループ

小児外科医（=こどもについての専門的な知識をもった外科医）の共通した認識を適切にあらわしたのが、「こどもはおとなのミニチュアではない」という言葉です。われわれはそれぞれのお子さんにとって病気を治すことは当然ですが、成長や発達を妨げず治療後何十年にもわたる生活を保障できるような治療法を熟慮した上で、確実な手技で治療を行うことを最も心掛けています。

脳神経外科

診療グループのご紹介

脳神経外科　外来医長　関　俊隆

脳神経外科は脳、脊髄、末梢神経といったすべての神経系疾患に対して内科的および外科的治療を行う診療科です。当科は今年で開講50周年を迎えました。今後も北海道医療のラストホープとしての自覚を持ち、高度な治療を御提供できるよう努力してまいります。

脳腫瘍班

脳腫瘍班は、良性腫瘍から悪性腫瘍まで幅広く対応できるように日々研究・診療にあたっています。外科的治療においてはMRI、PET、脳磁図などから得られた情報を詳細に検討し、摘出率の向上と機能温存の両立を目指して術前検討を日常的に行っています。手術の際にはナビゲーションシステム、神経機能モニタリング、内視鏡手術、さらにポルフィリン製剤を使った術中蛍光診断法による悪性脳腫瘍の摘出術などを行っています。また、小児科医や放射線治療医とも情報を共有し、抗がん剤治療や放射線治療にも積極的に取り組んでいます。頭蓋底腫瘍や小児脳腫瘍においては道内外から多くの患者さんが紹介されております。特に小児の髄芽腫などの未分化腫瘍、頭蓋咽頭腫、胚細胞腫の治療に関しては古くから取り組んでおり、その治療成績は全国でも高く評価されています。

血管障害班

血管障害班は開頭手術医、血管内治療医、そして脳血管内科治療医で構成されており、スタッフは、脳卒中専門医、脳神経血管内治療学会専門医を取得しており、各専門医が互いに個々の患者さんについて検討し、治療方針を決定しています。

日本人に多い「もやもや病」に関する研究および外科的治療は、かねてから全国をリードしています。手術に関してはより安全で確実な治療効果を追求し、拡大的な血行再建術を行っています。「主幹動脈閉塞症」や「頸動脈狭窄症」などに対してもSPECTを用いて脳血流評価を行い、術前の厳密な評価を基に的確な治療を心がけています。

「未破裂脳動脈瘤」については、患者さんやご家族と時間をかけて話し合うことを重視しています。それと並行して開頭外科医と血管内治療医が治療方法について検討し最良の治療法を決定しています。一見治療困難と思われる部位においても積極的なアプローチが可能です。また、単純なクリッピング術では対応できない複雑な動脈瘤に対してはバイパス術を併用することで対処可能です。「脳動静脈奇形」に対しても、開頭手術医と血管内科医、さらに放射線治療医とが話し合いながら個々の症例ごとに最善の治療法を選択しています。

開頭手術においては顕微鏡下技術や道具が進歩したことで治療の安全性はさらに向上しています。また、術中運動誘発電位モニタリングやインドシアニングリーンによる血流の可視化なども治療の安全性に大きく寄与しています。

脊髄・機能外科班

脊髄・機能外科班は脊髄および末梢神経の外科疾患に関する診療・研究を行っています。また昨年から北大 神経内科と合同チームを結成し、パーキンソン病による不随運動や本態性振戦に対する脳深部刺激療法にも取り組み始めました。道内で脳深部刺激療法を行っている施設は数少なく、さらにパーキンソン病に造詣の深い神経内科医と合同で診療にあたっている脳神経外科は数えるほどしかありません。不随運動に困っておられる患者さんのQOLの改善、そして介護をされているご家族の負担が少しでも改善できるように頑張ってまいります。

脊髄髄内腫瘍、キアリ奇形、脊髄空洞症、脊髄動静脈奇形といった稀な脊髄疾患に対する治療経験も豊富で、全国各地から患者さんが集まっています。さらに外科的治療だけではなく、放射線治療医や血管内治療医と合同で治療を行えるといった特長も持っております。また、頸椎症や腰部脊柱管狭窄症といった一般的な脊椎疾患に対する外科治療はもとより、神経疾患由来の四肢痙縮に対するバクロフェン髄腔内投与療法やボトックス療法なども行っております。

精神科神経科

外来診療のご紹介

精神科神経科　外来医長　櫻井　高太郎

精神科神経科外来では、精神疾患の診断と治療を行っています。今までは主に成人の診療が中心でしたが、平成２６年４月の児童思春期精神医学講座の開設に伴い、児童思春期症例の診察も開始いたしました。新来は完全予約制で月曜日から金曜日の午前中に行っております。

対象疾患

精神科神経科外来では、統合失調症、うつ病･躁うつ病などの気分障害、神経症など幅広く精神疾患の診察を行っております。また、てんかんや認知症も診察しています。以下、診療グループを紹介いたします。

統合失調症グループ

統合失調症は100人に1人弱の割合で罹患する頻度の高い疾患です。早期発見や早期治療、薬物療法と本人･家族の協力の組み合わせ、再発予防のための治療の継続が大切と考えられています。当院では従来の治療に加えて、対象となる方々にはクロザピンや治験薬などの新規の薬物療法の導入や、作業療法や認知リハビリテーションなどで、病状の更なる緩和及び改善を図れるような治療を行っています。

気分障害グループ

気分障害グループでは、数種類ものお薬を服用してもなかなか症状が改善しない患者さんの治療を主に行っています。進歩が著しい新しい気分障害治療薬や麻酔科と協力して行う電気痙攣療法などを用いて、症状改善だけでなく社会生活能力の回復をも治療目標として日々診療を行っています。

臨床精神病理グループ

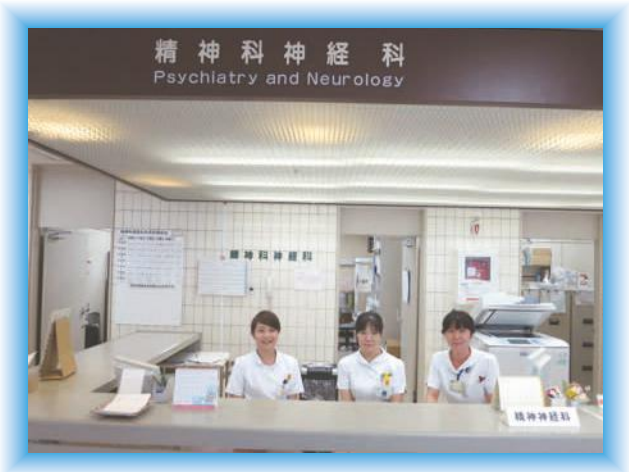
精神科神経科の主な治療法である精神療法、薬物療法、リハビリテーションを組み合わせて、さまざまな疾患の治療を行っています。作業療法や集団認知行動療法などを用いてうつ病患者さんの社会復帰を促進させるためのプログラムや、気分障害（うつ病、躁うつ病）患者さんに対する認知リハビリテーションを全国に先駆けて行っています。摂食障害（拒食症、過食症）に対する認知行動療法や強迫性障害に対する曝露反応妨害法なども行っています。

児童思春期グループ

児童思春期精神科外来はH26年4月より開設されました。15歳までのお子さんの心の問題、発達の問題に関して、児童精神科医、臨床心理士、ソーシャルワーカーなど多くの専門家がチームとして包括的な子どもと家族のための包括的な医療を行っています。15歳までの不安障害、気分障害、発達の問題などを対象としております。必要に応じて、発達に関する諸検査、カウンセリングなどもおこなっております。

神経生理グループ

てんかんは適切な診断および治療により、その7割は発作を抑制することが可能です。近年、日本でも新規抗てんかん薬が使用可能となり、薬物療法の選択肢が広がっております。てんかん専門外来は全員がてんかん専門医かつ精神科専門医であり、てんかん発作だけでなく、QOLも向上するような治療を心がけています。



小児・障害者歯科のご紹介

小児・障害者歯科　外来医長　吉原　俊博

北海道大学病院歯科診療センターは1967年に設置された北海道大学歯学部附属病院を発祥としており、開院時より、保存科で小児に対する治療が行われていました。1977年に小児歯科学講座、翌年に小児歯科外来が開設され、2012年に小児・障害者歯科外来に改称され、現在に至っています。

構成

当科の歯科医師は27名（2014年4月現在）で、そのうち日本小児歯科学会専門医指導医が2名、日本小児歯科学会専門医が5名、日本障害者歯科学会認定医指導医が1名、日本障害者歯科学会認定医が7名です。スタッフとして歯科衛生士1名、看護師2名です。

特徴

治療の主な対象が成長を続ける小児であり、患者さんの成長段階に応じた対応が必要であること、主たる対象歯科疾患であるう蝕、歯周病が食生活の乱れと口腔清掃不良に起因しているので治療には保護者の協力が不可欠であることが特徴です。

治療

小児歯科:対象患者さんは0～16歳の小児全般です。通法下での診療が困難な患者さんでかつ緊急性が低い場合には、患者さんの発達年齢を考慮し、行動変容法を併用したトレーニングを行っています。緊急性がある場合には、やむをえず抑制具を使用した治療も行いますが、可能な限り、静脈内鎮静法下や全身麻酔下での歯科治療を行っています。抑制具を使用する際には、患者さんのプライバシーに配慮し、防音の施された個室で治療を行います（写真）。また、骨髄移植や造血幹細胞移植前の患者さんの口腔内感染巣の精査や歯科治療だけではなく、移植後も病棟訪問を積極的に行い、GVHDによる口腔内の変化に注意を払いながら、看護スタッフや保護者に対しても指導を行っています。また、当科に来院できない入院患者さんに対しては、往診も行っています。

障害者歯科:対象患者さんは障害のある患者さん全般です。う蝕や歯周病などが原因で急性症状がみられる場合は、迅速な処置によって症状の改善を計ることを優先します。症状がなく緊急性が低い場合には、小児歯科同様、行動変容法を併用したトレーニングを行い、治療に対する抵抗感を少なくしたのち治療に取りかかるようにします。障害者歯科では術者の他に多数の補助者が参加して、治療を進めます（写真）。治療を安全・的確に行い、可能な限り短時間で終了させるために、やむをえず開口状態を保つための開口器や患者さんの手足の動きを抑える抑制具を使用することがありますが、小児歯科同様、可能な限り、静脈内鎮静法下や全身麻酔下での歯科治療を行っています。

臨床遺伝子診療部の紹介

臨床遺伝子診療部　矢部一郎（部長）、山田崇弘、長　和俊、田島敏広（副部長）

平成13年に北大病院臨床遺伝子診療部が設立されて以来、各診療科から臨床遺伝専門医有資格者を組織化し、遺伝子診療（検査・診断）やヒトゲノム研究にかかわる遺伝カウンセリングを実施してきました。平成15年には、道内で最初の日本人類遺伝学会による臨床遺伝専門医制度施設認定を受けています。現在、臨床遺伝子診療部には学会指定指導医4名を含めて専門医有資格者10名，専門医研修医師7名，認定遺伝カウンセラー1名が在籍しています。

ゲノム医学と臨床遺伝学の進展と共に北海道全域から寄せられている遺伝カウンセリング依頼は増加の一途をたどっています。特に一昨年来，無侵襲的遺伝学的検査（Non-Invasive Prenatal Genetic Testing: NIPT）に関して社会的注目が集まったことより出生前診断に関する遺伝カウンセリングの数が飛躍的に増加しました。平成25年の遺伝カウンセリング実績はNIPTを中心に840件に上ります。出生前診断については産科スタッフが中心となって役割を担っています。小児科領域では様々なこどもの先天性疾患、特に、成長の障害を起こす疾患、成長ホルモン欠損症、先天性甲状腺低下症、先天性糖尿病、先天性腎尿細管疾患、骨系統疾患、性分化疾患、先天性神経疾患、筋肉疾患、代謝疾患の遺伝カウンセリング、遺伝子診断に基づく診療・管理方針の決定、支援を行っています。特に先天性副腎疾患の分野では産科と協力した出生前診断／治療を日本で行える数少ない施設として機能しています。また性分化疾患は染色体検査、遺伝子検査も行い、適切な性決定、管理方針が必要ですが、泌尿器科と共同でこの疾患の遺伝診療もおこない、全国でも屈指の施設として機能しています。その他、神経内科領域では神経疾患、筋疾患の遺伝カウンセリングについて永年の実績があり、北海道全域からのカウンセリング依頼を受けていますし、耳鼻咽喉科領域では難聴の遺伝カウンセリングで実績があります。これら全てのカウンセリングについては月1回開催される診療部会議で報告され、診療部全体で情報を共有し全面的に支援することで活動の幅を広げています（写真1）。最先端の遺伝子診断・検査は当院で行うこともありますが、他施設との共同で行う場合もあります。

平成25年度から、新たに家族性腫瘍領域にも取り組んでいます。これまで臨床遺伝子診療部に在籍した臨床遺伝専門医の所属診療科に腫瘍関連の診療科が無かったため、家族性腫瘍の遺伝カウンセリングの実績自体はあるものの相談件数は少ない状況でした。しかし近年の社会的なニーズや本院ががん診療連携拠点病院であることを鑑み本領域の拡充が急務と考えました。そこで昨年から本診療部で研修を積み将来的に臨床遺伝専門医取得を目指す家族性腫瘍に関する診療科（乳腺外科,婦人科,泌尿器科,消化器外科,等）のメンバーを当診療部に迎えて体制を強化しました。なかでも婦人科からの参加者は昨年研修の末、既に臨床遺伝専門医資格を取得し積極的に遺伝診療に取り組んでいます。さらに特筆すべきは平成26年度から新規に専任の非医師の認定遺伝カウンセラーが雇用されたことです（写真2）。これまで北海道大学にはない職種であり、独立して遺伝カウンセリングを行う能力を持つ臨床遺伝の専門職です。認定遺伝カウンセラーは全国の複数の大学の修士課程で養成されており、既に多くの先進施設から活躍が報告されています。北海道大学病院にとっては初めての臨床遺伝専任職員でもあり遺伝医療の飛躍的な充実が期待されます。当院で遺伝に関する相談事がございましたら、まずは認定遺伝カウンセラーに声をかけて下さい（内線7056，PHS82395）。

臨床遺伝子診療部は道内における遺伝教育、遺伝リテラシーの向上にも貢献しなければならないと考えます。当院における遺伝カウンセリング体制の充実が今後の北海道における遺伝診療のモデルとして多くの医学生,研修医の指導に役立つものとなるよう更なる充実を計っていく予定です。

1. 臨床遺伝子診療部会議

2. 認定遺伝カウンセラー資格取得見込みの柴田有花さん

INFORMATION

北海道大学病院は、平成26年6月から原則予約制 となります。

紹介状をお持ちの患者さんからのご予約

連携機能協定病院様ほかからのご予約

新来予約受付担当で予約をお受けいたします

全診療科向けの予約受付は
平成26年5月19日（月）からスタートします。

専用電話番号は**011-706-7733**です。
受付時間は平日9：00〜16：00
（＊但し翌日の予約は15：00まで）

＊精神科神経科については、011-716-1161（代）を通じてお問い合わせ願います。
＊リハビリテーション科については、011-706-7010でお問い合わせ願います。

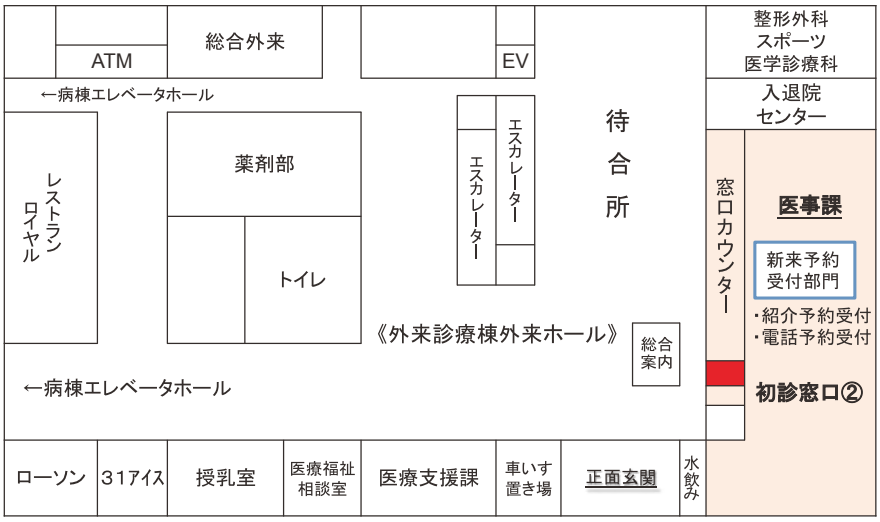
FAX**011-706-7963**に送信して下さい。
専用電話番号は**011-706-6037**です。
受付時間は平日8:30〜17:00
（＊16：30以降は翌日の処理となります。）
（＊但し翌日の予約は15：00まで）

＊お手続きにつきましては、こちらからお届けしております冊子及びﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞをご覧下さい。
http://www.huhp.hokudai.ac.jp

なお、消化器外科Ⅰ（小児外科含）・消化器外科Ⅱ・形成外科・スポーツ医学診療科・産科・乳腺外科につきましては予約なしでも受診できます。
事情により、予約がない場合・「紹介状（診療情報提供書）」をお持ちでない場合は、初診窓口にご相談ください。
連携機能病院各位におかれましては、ご理解とご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

《 新来予約受付部門 》設置図

外来診療棟 1階



・編・集・後・記・

本年4月から医療支援課地域医療連携係に配属になりました吉井洋と申します。病院勤務は初めてで、カンファレンスやクリティカルパス、キャンサーボード等の耳慣れない診療関連の用語に戸惑いつつ、日々仕事に励んでいます。趣味は野鳥撮影で、天気の良い週末や休日には、愛用のカメラに抱え、野鳥を中心とする小動物を求めて、野幌の森林公園等を歩き回っています。森林浴には「癒やし」や「リラックス」の効果があるようで、日頃のストレスや運動不足を解消しています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

発行 平成26年5月
北海道大学病院
地域医療連携福祉センター

〒060-8648　札幌市北区北14条西5丁目
TEL：011-706-6037・7943（直通）
FAX：011-706-7963（直通）
http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/